

お城の基礎知識 2

平成30年6月16日（土曜日）
熊本城調査研究センター 山下 宗親

城郭の構成要素

堀：曲輪（郭）に対して並行に構築される堀。中世城郭から多様化する。
空堀 堀障子 畝堀 水堀

橋：川や堀に対して、直角や斜めに架けるなど様々である。
土橋 木橋 石橋

曲輪（郭）：城内を堀や土塁・石垣などで囲んだ平坦地。通常は、政務を行い、城の管理を行う空間。戦闘では、兵を駐留させる空間。

土居（土手）：土塁・発生土で盛り上げた、土造りの堤防状の構造物。
切岸・切土を行い、勾配を造り斜面を成型する。

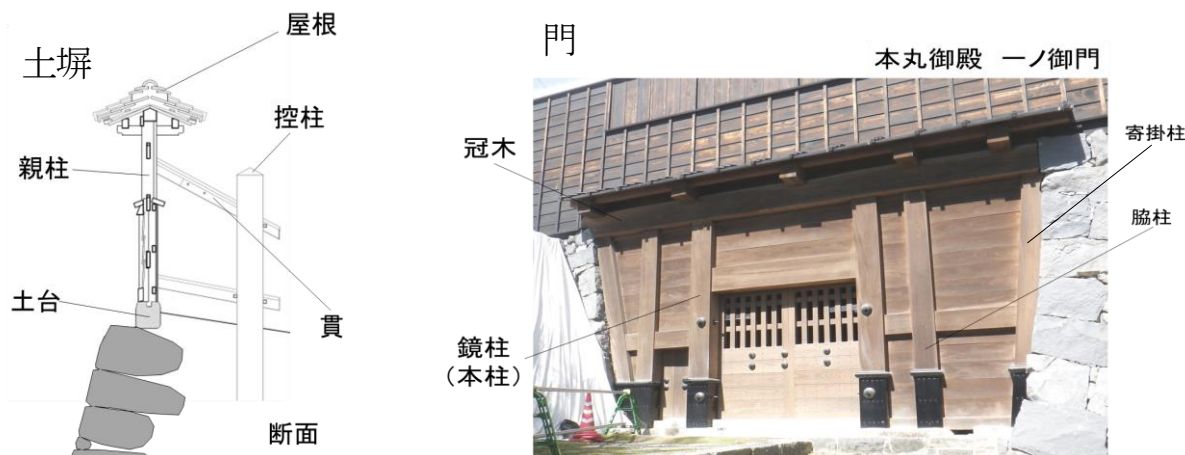
塁線：曲輪の縁辺部分を形成する、土塁や石垣の平面形状（配置）。守城側は、攻城側への側面攻撃（横矢）を可能にするため、途中を屈曲させる。

土塀：鉄砲対策のため壁厚を大きくし、親柱は土壁内に取り込まれる。土壁表面には、漆喰や下見板で化粧化されるようになる。

入口：虎口・城内への入り口。城壁や塁線上の「切れ目」。攻城側は虎口めがけて兵力を集中、突破を行う。守城側はさまざまな工夫をこらして敵を攻撃する。

門・通路上の通用施設ではなく、防御施設。基本内開き。

- ・塀重門：鏡柱のみの門で、冠木や屋根も無い。
- ・棟門：鏡柱のみの門。切妻の屋根を持つ。
- ・冠木門：鏡柱と上をつなぐ冠木で構成されている。
- ・薬医門：鏡柱と控柱を覆う切妻屋根を持つ門。
- ・高麗門：鏡柱覆う切妻屋根と控柱と貫に小屋根を持つ門。
- ・長屋門：長屋形式の建物の一部に門が設計されている。
- ・埋門：土塁、塀、石垣の一部をくり抜いた門。
- ・櫓門：一階が門、二階が櫓形式の門。



御殿：儀礼行為や式典の空間。権威を演出する舞台。城主の住居。

御殿の構成

- 表御殿（城主の公邸）
 - ・玄関：式台
 - ・広間：上段の間（城主着座の間）
 - ・書院：広間を小型化した造り
- 中奥（城主の日常生活の空間）
 - ・居間（上段の間）、寝間、風呂、能舞台、茶室
- 奥（城主のプライベート空間）
 - ・奥居間、奥寝間、長局

櫓：平時は物資の保管庫、戦闘時は攻撃拠点や物見の役目。

曲輪の出隅部分や虎口部分に配置。

礎石造りの恒常的建築物（礎石建物）。

防火・防弾を考慮して、厚い土壁と屋根は瓦葺き。

天守同様「望楼型」と「層塔型」に分類。

「重」：外観屋根の数、「階」は階数。

三重櫓・天守と等しい建造物。江戸時代には、天守代用として扱われる櫓が存在。

二重櫓・二重目の屋根は入母屋とするが、切妻とする場合もある。江戸城、名古屋城、大坂城の二重櫓は例外的に大きい。

平櫓・最も多く造られた櫓。屋根は切妻にする場合もある。

【参考図書】

- ・熊本市『重要文化財 熊本城宇土櫓保存修理工事報告書』 1990年
- ・三浦正幸『城の鑑賞基礎知識』 至文堂 1999年
- ・富田紘一『古写真に探る 熊本城と城下町』 肥後上代文化研究会 1999年
- ・『歴史群像 名城シリーズ 熊本城』 学習研究社 2000年
- ・『歴史群像シリーズ よみがえる日本の城 25 城造りのすべて』 学習研究社 2005年
- ・『歴史群像シリーズ特別編集 決定版 図説城造りのすべて』 学習研究社 2006年
- ・富田紘一『熊本城 歴史と魅力』 熊本城顕彰会 2008年
- ・平井聖 監修『決定版よみがえる熊本城』 碧水社 2008年
- ・長崎大学附属図書館『長崎大学コレクション外編 I マンスフェルトがみた長崎・熊本』 長崎文献社 2012年
- ・富田紘一『熊本城みてある記』 熊本市 2013年

